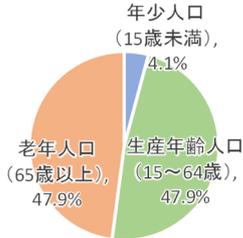


久斗山 (くとやま)

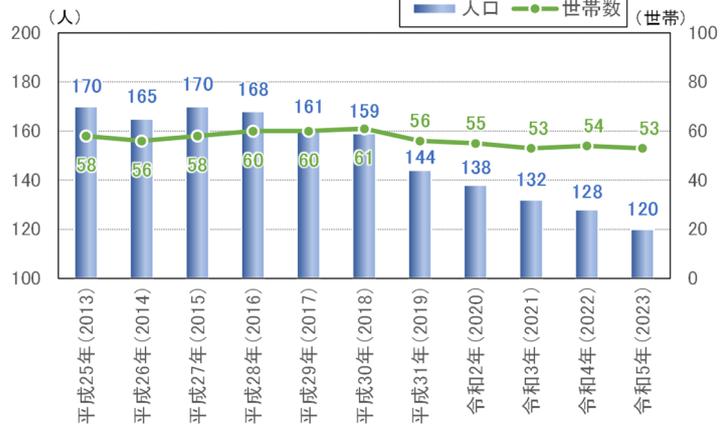
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	120人
世帯数	53世帯
高齢化率	47.9%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の周囲を山に囲まれた農山村で、田畑は少ない。集落の中を流れる久斗川には多くの小川が注ぎ、県道山田新温泉線が並走する。周辺の山はかつてたたら場としてにぎわったところで、遺跡が各所に見られる。

地名由来 柳田國男は「クト」は燃料木材の産地とする。また、かまどの「くど」の清音化、崩(くど)で崩壊地を意味する崩山の地形、斗料の九斗とも言われる。久斗山の地名は、久斗の山地によると推定される。(「たじま地名考」日本海新聞、『ひょうごの地名』(吉田茂樹著))

歴史等 近世の久斗山村は、但馬国美含郡に含まれ、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代の慶長10年(1605)から出石藩領となった。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は48石余。砂鉄の生産地としてにぎわった所で、多くのかんな流し場やたたら場があり、本谷の鍛冶屋場には現在も金屋子神が祀られている。

明治22年(1889)長井村の大字となり、大正元年(1912)に大庭村、昭和29年(1954)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数92、人口は男238・女250。当地内の池カ平集落は、昭和17年(1942)7戸、昭和47年(1972)4戸、昭和51年(1976)には住民が冬期越冬住宅へ移転したため無住地となるが、同年秋には曹洞宗安泰寺が京都から移転して座禅道場として自給自足の厳しい修行を始めた。

これまで把握している文化財

文化財の件数 35件 (うち指定等文化財 2件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	0	6	
		石造物	0		
		工作物・その他の構造物	0		
	美術工芸品	彫刻	1		
		絵画	0		
		工芸品	1		
		書跡・典籍	0		
無形文化財	その他の無形文化財	古文書・歴史資料・考古資料	4	0	
		音楽	0		
		演劇	0		
		工芸技術	0		
		その他の無形文化財	0		
		信仰の場	7		
		祭具	0		
民俗文化財	有形の民俗文化財	民具	0	11	
		その他の有形の民俗文化財	0		
		年中行事・民俗芸能	4		
	無形の民俗文化財	民俗技術	0		
		食文化	1		
		民間説話・俗信	0		
		その他の無形の民俗文化財	0		
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	11	16	
		古墳・その他の墓	0		
		城館跡・寺社跡	0		
		街道・古道等	1		
		戦争遺跡	0		
		その他の遺跡	2		
		山岳・高原・丘陵	0		
	名勝地	海岸・海浜・島嶼	0		
		河川・滝・溪谷・湖沼	1		
		公園・庭園	0		
	動物・植物・地質鉱物	その他の名勝地	動物		0
			植物		2
			地質鉱物		0
	文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	0		0
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0		



大杉神社の祭り(湯立て神事)



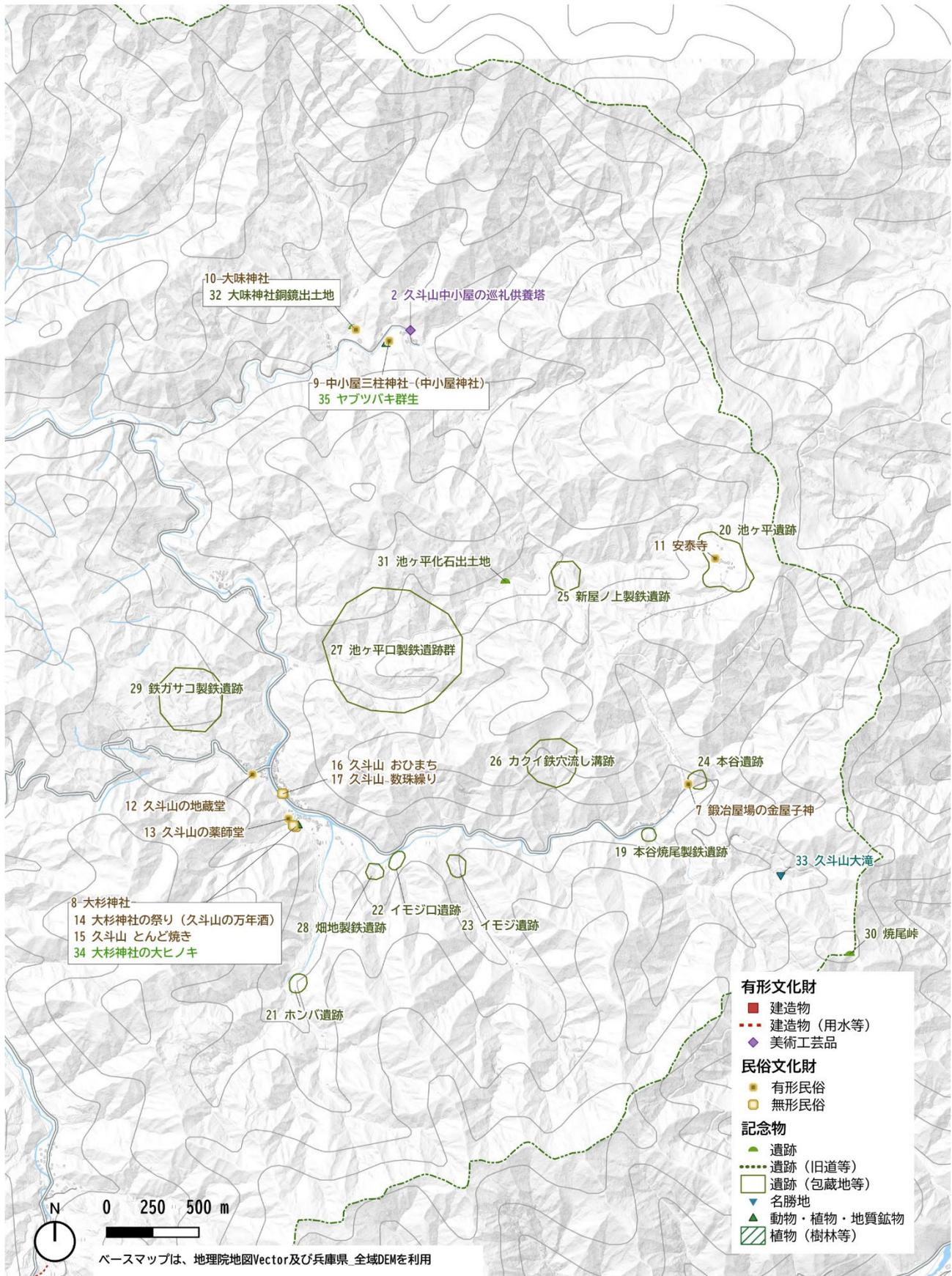
中小屋の巡礼供養塔 大杉神社の大ヒノキ



本谷焼尾製鉄遺跡

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

2-19 久斗山

文化財の一覧

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	1	安泰寺の本尊	安泰寺は昭和 40 年代後半に京都市内が移ってきた寺。本尊は京都から移ってくる際、他の寺から譲り受けたものと言われている。
工芸品	2	久斗山中小屋の巡礼供養塔 (江戸期建立)	久斗山中小屋集落の墓地下の路傍に立つ小さな石碑。表面がかなり摩耗して刻字が消えかかっているが、「西国三十三所□□養 南無観世音菩薩」と読める。元は中村敏広宅の横にあったものと伝わる。大水で流されていたが発見され現在の場所に立てられたものである。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	3	久斗山部落文書	正徳 2 年 (1712) 久斗山鉄山殺人事件・タタラ製鉄関係文書。
	4	山本治文書	文政 7 年 (1824) タタラ製鉄・鍛冶関係文書。
	5	鉄山師の位牌	久斗山の新屋 (田村家) には、鉄山師の位牌と称されるものが仏壇に祀られている。田村家は村庄屋も務め、鉄山師の宿、鉱山事務所のようなこともやっていたため、当時不幸にして亡くなった鉄山関係のみよりのない人々を葬り、位牌をつくって供養したのではないかと推察される。
	6	鉄滓の付着した石臼	昭和 60 年 (1985) の畑地地区の農道工事の際に出土した鉄滓の付着した御影石の石臼。87cm×70cm×55cm。現在は久斗山の個人宅の庭にある。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	7	鍛冶屋場の金屋子神	製鉄の神である「金屋子」を祀る。『浜坂町史』には、「金屋子 (この地方の人々はカナゴさんといっている) をお祭りしていた小社の石がたくさんもられている。以前ここに小社があり、今もハシカの神としておまいりしているとのことである」とある。現在は小祠が建てられている。また、たたら場のあった時代には、社はもっと山裾の方に建てられており、たたら場が廃業になった後に現在地に移されたと考えられている。
	8	大杉神社	祭神は五十猛命。創立年月は不明。文政 8 年 (1825) に本殿を再建している。明治 6 年 (1873) 10 月に村社に列せられる。境内社には八阪神社 (須佐之男命、保食命) がある。
	9	中小屋三柱神社 (中小屋神社)	境内には幹回り数mのスギやモミの木などの巨木も見られる。
	10	安泰寺	昭和 46 年 (1971) までは池ヶ平に 4 戸の民家があったが、豪雪により冬季に孤立するため正法庵に移住し、廃村となった。その後、永平寺の末寺で京都にあった安泰寺が、修行の場を求めて、俗化した京都からへき地の池ヶ平に移ってきた。
	11	久斗山の地藏堂	但馬六十六地藏尊霊場の第六番札所。
	12	久斗山の薬師堂	久斗山地区の墓地の一角に堂があり、江戸期の薬師如来など 5 体の仏像が安置されている。弘化 2 年 (1845) に集落が見渡せる高台に建てられたもので、かつては、この場所で村芝居や興行師等が来て見世物を行っていたと伝わる。平成期に修理がされている。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	13	大杉神社の祭り (久斗山の万年酒)	10 月 1 日に行われる。大杉神社境内のヒノキの大木の根もとに地元で採れた米と谷の清水で年末に古丹波の壺を埋めて濁酒を仕込む。地元では万年酒と呼ばれ、秋祭りの (10 月 1 日) には酒壺占いの酒壺神事が行われる。神事では、昨年仕込んだ濁酒を神前に捧げ豊凶を占う。濁酒の出来具合が良ければ吉でそのまま保管し、劣化していれば凶で年末に作りなおす。この占いの神事は直会式とよばれ全国的にも少ない神事である。

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	14	久斗山 とんど焼き	1月7日の午前6時から行われる。正月の間、神棚や玄関先などに飾られていたしめ縄などを持ち寄り、燃やして一年の感謝と家内安全を祈願する。昔は15日に行われていた。この日の朝は七草粥で、とんどの火であぶって持ち帰った鏡餅をお粥に入れる家もある。また、書初めの習字を炎の勢いで高く飛ばすと、字が上手になると言われている。
	15	久斗山 おひまち	1月7日の夜、集会所で行われる。神主さんに一年の家内安全を祈祷してもらう。
	16	久斗山 数珠繰り	1月16日に行われる。かつては、「じゅ〜ずくり、なんまいだ〜」と唱えながら、大きな数珠を持った子ども達が家々を廻っていた。子どもの人数が減ったことから、令和2年(2020)からは、老人会と一緒に集会所で開催されている。長さ8mの大数珠を手に、輪になって鐘の音に合わせて回す。房の部分で頭や体の悪いところをなでると治るといわれるがある。
食文化	17	久斗山のかきもち	かつては各家庭でつくられ、子どもたちのオヤツとして食べられていた。現在は久斗山農産加工組合で生産されている。短冊状に切ったお餅2枚1組10個を藁で連ねたものを、竹の竿にかけて乾燥させる。味は豆や栃などの6種類が生産されている。

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	18	本谷焼尾製鉄遺跡	江戸時代中期(18世紀前半)頃に砂鉄から鉄を精錬していたたたら場跡。地質が山陰型黒雲母花崗岩によって形成され、谷が深く豊富な水と木炭にする森林があることから、江戸時代には砂鉄を原料に鉄を精錬する「たたら製鉄」が盛んに行われていた地域である。発掘調査では、たたら製鉄炉跡(床釣施設)と、これを覆う隅丸方形の高殿施設2基(重複関係)が検出されている。保存状態がよく、浜坂地域のたたら製鉄史を解明する上で貴重な遺跡である。遺構は保護のために盛土を施して埋め戻している。 町指定文化財
	19	池ヶ平遺跡	縄文早期・中期の集落跡。弥生時代の集落跡も検出。縄文早期の山形押型文のほか、前・中・後・晩期の土器や石器が多く採集されている。炉跡や集石遺構も検出。
	20	ホンバ遺跡	近世の生産遺跡。カナクソが多数散布。出石藩領の久斗山村鉄山にあたる。主な操業時期は正徳年間(1711~1715)、文政7年(1824)。
	21	イモジ口遺跡	近世の生産遺跡。約3aの広さにカナクソが多数散布。出石藩領の久斗山村鉄山にあたる。主な操業時期は正徳年間(1711~1715)、文政7年(1824)。
	22	イモジ遺跡	近世の生産遺跡。約3aの広さにカナクソが多数散布。出石藩領の久斗山村鉄山にあたる。主な操業時期は正徳年間(1711~1715)、文政7年(1824)。
	23	本谷遺跡	近世の生産遺跡。約2aの広さにカナクソが多数散布。鍛冶屋場製鉄遺跡群(たたら場跡、鍛冶屋場、金屋子さん)
	24	新屋ノ上製鉄遺跡	近世の生産遺跡(たたら場跡)。出石藩領の久斗山村鉄山にあたる。主な操業時期は正徳年間(1711~1715)、文政7年(1824)。
	25	カクイ鉄穴流し溝跡	近世の生産遺跡(鉄穴流し溝跡)。出石藩領の久斗山村鉄山にあたる。主な操業時期は正徳年間(1711~1715)、文政7年(1824)。
	26	池ヶ平口製鉄遺跡群	近世の生産遺跡(鉄穴流し溝跡、たたら場跡)。出石藩領の久斗山村鉄山にあたる。主な操業時期は正徳年間(1711~1715)、文政7年(1824)。
	27	畑地製鉄遺跡	近世の生産遺跡(たたら場跡)。出石藩領の久斗山村鉄山にあたる。主な操業時期は正徳年間(1711~1715)、文政7年(1824)。俗称「ハタアジ」という。
28	鉄ガサコ製鉄遺跡	近世の生産遺跡(鉄穴流し溝跡)。出石藩領の久斗山村鉄山にあたる。主な操業時期は正徳年間(1711~1715)、文政7年(1824)。	

2-19 久斗山

分類	番号	名称	概要
街道・古道等	29	焼尾峠	久斗山地区南側の山頂にあり、池ヶ平から小原・香住への道とともに、昔から造り酒屋などの出稼ぎ、女先生を送っていく児童の父兄、出入りする商人、奉公に出る娘たちが行き来した道である。今は雑草に覆われ、その面影はなくなっている。
その他の遺跡 (跡地・ 伝承地等)	30	池ヶ平化石出土地	久斗川支流、標高約350m付近の崖では、砂・レキの中でタニシなどの貝化石や木の葉の化石が採集される。この化石は日本海が湖の頃のものといわれている。近くには、この層を切って貫入した岩脈の俵石が見られる。
	31	大味神社銅鏡出土地	大味神社境内。銅鏡が出土。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
河川・滝・溪谷・湖沼	32	久斗山大滝	新温泉町久斗山字本谷から香美町村岡区味取へ抜ける県道257号、岸田川の支流久斗山川の源流(その支流焼尾川)にある落差25mの滝。久斗川の藤尾地区から上流部は溪谷状の地形を呈しており、特に久斗山地区には、大小の滝が見られる。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	33	大杉神社の大ヒノキ	久斗山の大杉神社本殿裏にある幹回り6.5m、推定樹齢800年とも、千年とも言われる大ヒノキ。このヒノキの根元には、「万年酒」と言われる酒が作られており、毎年大杉神社の祭礼の当日(10月1日)に開けられ、村の吉兆を占う神事が伝わる。かつては、2本の株立ちであったが、昭和12年(1937)の台風で1本が折れ、その材で奉安殿の全てが建造できたといわれる。9.5mの根元回りは往時の巨木をしのばせる。 県指定天然記念物
	34	中小屋三柱神社のヤブツバキ群生	かつての久斗山小学校大味・中小屋冬期分校の右手前方の森、中小屋三柱神社の本殿を覆うように自生している。幹回り約50cmの古木を含め、極めて大きな群生をつくっている。

